

G1オークス2023 全頭診断書

【オークスのラップパターン傾向】

過去10回のオークスのラップパターンは
平均ペースの瞬発戦ラップが6回、
平均ペースの持続ラップが2回、
スローペースからの瞬発戦が2回。

ハイペースや消耗戦になることは無く、
それがオークスと言うレースの本質になります。

平均ペースの瞬発戦では、位置取りよりも
上りの速さが重要になるため、距離適性を
血統によりを補われた「近走上り上位馬(瞬発戦実績)」が
有利になる可能性が高いと考えております。

【オークスの血統傾向】

3歳牝馬にとって府中の2400mと言う舞台は過酷で、
スローペースにもなりにくい事から、それなりの体力(スタミナ)を
問われるレースであります。

2400m実績が有ったディープ系種牡馬以外を父に持つ場合は、
父母父に欧州のスタミナ血統を持つサンデー系種牡馬や
欧州血統の種牡馬を父に持つことが非常に重要になります。

また、牝系の距離適性も大切なファクターで、
過去10年の3着以内馬30頭は全て
牝系ファミリーから、1800m以上の距離で
2勝クラス以上に勝ち星があるか、重賞3着以内の
実績馬が出ておりました。

【期待値が高い距離ローテ】

前走が1800m以上だった馬の中でも、
そのレースで勝っていた馬は、過去10回のオークスで
10頭が馬券に絡んでおり、非常に期待値が高いローテと言えます。

また、デビュー戦や初勝利の距離も無関係ではありません。

デビュー戦で1800m以上に使われていた馬は、
その陣営が「中距離タイプの馬」と認識していた可能性が高く、
実際に過去10年の3着以内馬30頭中14頭が、デビュー戦または
初勝利が1800m以上だった馬となっております。

あくまでも参考程度のデータではありますが、
取捨に迷った時の判断材料のひとつとして
頭の片隅にでも置いておくとよいかも知れません。

以上の事を念頭に、オークス2023特別登録馬の
「全頭診断書」を作成して参ります。

1番ラヴェル

父:キタサンブラック(Tサンデー系)

父母父:サクラバクシンオー(欧プリンスリーギフト系)

母父:ダイワメジャー(Pサンデー系)

祖母父:フレンチデピュティ(米ヴァイスリージェント系)

桜花賞馬キョウエイマーチの牝系

父は天皇賞春優勝馬。

半姉ナミュール(父ハービンジャー)はオークス3着馬で、
距離適性は問題なさそうです。

母系のダイワメジャーとヴァイスリージェント系から

スピード能力を強化されているのが高速上りに対する
適応力に繋がっているようです。

何よりもこの馬は、
唯一桜花賞馬リバティア일랜드を負かした存在です。

そのG3アルテミスSは外差し有利馬場に恵まれた事と、
リバティア일랜드の前が壁になって追出しが遅れた事に
助けられた印象でしたが、上り3F33秒0と言うのは
2歳牝馬としては破格の時計であったと考えております。

G1阪神JFは消耗戦ラップ。

G1桜花賞は持続ラップ。

凡走した近2戦はいずれも前半3Fが34秒以下の
速い流れに乗れなかった事が敗因と考えております。

後傾ラップのマイル重賞は、本馬には忙し過ぎる印象で、
体型からも距離延長は好材料となりそう。

ちなみに、半姉ナミュールは1600mデビューでしたが、
本馬は1800mをデビュー戦として選ばれており、
陣営が姉よりも中距離寄りのタイプだと判断したのだとすれば、
姉以上の着順があるかも知れません。

前半3Fが35秒以上掛かるのが常の
オークスの流れは、この馬には最適のラップとなりそうで、
瞬発戦になれば、リバティア일랜드には敵わなくとも
他のメンバーには引けを取らない末脚を見せる可能性は
十分にあるのではないかと考えております。

父距離適性:A

牝系距離適性:B

上り評価:A

レース適性:B

前走評価:展開不向き
相対指数:D
デビュー距離:1800m

2番ライトクオンタム

父:ディーピンパクト

父母父:欧リファール系

母父:クオリティロード(米ミスプロ系)

祖母父:米ダンチヒ系

曾祖母父:米インリアリティ系

ダービーを狙った配合で生産したら牝馬出ちゃった
という、生産者には残念なパターン……

徹底的に母系からトップスピードを強化されており、
オークスよりダービーに向かって欲しかったと
個人的には考えております。

母は米国の芝1800mG1勝ち馬で、
牝系の距離適性としてはギリセーフと言ったところ。

馬体は父譲りでコンパクトにまとまっており、
脚は長く、胴が詰まった印象も無いので
2400mを走れてもよさそうな印象を受けます。

前走の桜花賞は、初めての多頭数競馬で
最内枠に入っしまい、スタート後に外から一斉に
被せられて馬がパニック状態になっておりました。

今回も多頭数の1枠に入っしまい、
精神面が不安材料となります。

ただ、距離が延びる今回は、この馬でも好位につける
競馬が出来る可能性もあり、揉まれず普通に競馬が出来れば

上位争いに加わってくるかもしれません。

弟の管理馬からお兄ちゃんが降りて、他厩舎の管理馬
ソーダズリングに乗る事もあって、相当人気を落としそうですが、
実はお兄ちゃんは、ここ10年のオークスで8回騎乗して
全て馬券圏外に散っております……

父距離適性:A

牝系距離適性:C

上り評価:A

レース適性:B

前走評価:パニック

相対指数:D

デビュー距離:1600m

3番キタウイング

父:ダノンバラード(ディープ系)

父母父:米ファピアノ系(ミスプロ系)

母父:アイルハヴアナザー(米フォーティーナイナー系)

祖母父:ゼンノエルシド(欧ニジンスキー系)

ダノンバラードはG1未勝利馬。

G2AJCC(2200m)が勝ち星の最長距離。

産駒傾向としても東京2400mに向くイメージが無く、
上り時計の掛かる小回りコース向きの種牡馬です。

牝系ファミリーも距離はマイルまでで、

母の半姉ストーミーシーは中山マイル重賞実績馬。

父距離適性:C

牝系距離適性:D

上り評価:C

レース適性:D

前走評価:D

相対指数:D

デビュー距離:1200m

4番キミノナハマリア

父:ハービンジャー(欧ダンチヒ系)

父母父:欧ネイティヴダンサー系

母父:ヴィクトワールピサ(Tサンデー系)

祖母父:クロフネ(米ヴァイスリージェント系)

父は昨年の3着馬ナミュール、17年2着馬モズカッチャンの2頭を馬券圏内に送り込んだ実績のあるハービンジャー。

牝系ファミリーからは、祖母のパールシャドウドウが唯一2勝クラスの1800mで勝っておりますが、基本的にはマイル以下の牝系になります。

これまで距離延長ローテで2度凡走しており
今回も延長ローテで、期待よりも不安材料が大きいと考えます。

父距離適性:A

牝系距離適性:C

上り評価:C

レース適性:D

前走評価:D

相対指数:E

デビュー距離:1800m

5番リバティア일랜드

父:ドゥラメンテ(欧キングマンボ系)

父母父:サンデーサイレンス

母父:オールアメリカン(欧ロベルト系)

祖母父:ザール(欧ミスプロ系)

父には何の不安もありません。

問題は、母が豪州の1400mG1を勝っている点。

2000mのG1も勝っているので、

一応、牝系の距離適性はクリアできていますが……

気になる点が3つあります。

ひとつ目は、厩舎が馬の体型を長距離仕様に改造した事。

これは、厩舎が距離に対して自信を持っていない時に
よくやる努力で、それが結果に繋がるのかは疑問である事。

二つ目は、川田騎手の

「お願いですからスタートするまで声援は控えて下さい」

という発言です。

東京2400mはメインスタンド前からのスタート。

桜花賞でも声援で馬が動揺して後方からの競馬になっており、
神がかり的な末脚がなければ惨敗していたレースでした。

騎手が公の場で、こんな発言をするのは

よほど馬に信頼出来ない所がある事の裏返し。

とも受け取れます。

3つ目は、休み明けの桜花賞であれだけ負担の大きい競馬を
した後ですから、当然叩き2走目のポカを心配すべき。という事。

個人的な見解ですが、この馬は牝馬としては、

かなり筋肉質な馬体で、2000m位が適距離ではないか
と言う印象を持っており、陣営の馬体改造への努力が、
そのイメージを増幅させてしまいます。

無論、アーモンドアイを思わせるような

回転が速く、なおかつ大きなストライドから生み出される

末脚の破壊力は名馬となる証だと考えておるのですが、
今回に限っては「人気でもこれが本命◎です」
と言えるほど、拙者は信用しておりません。

父距離適性:A

牝系距離適性:C

上り評価:S

レース適性:微妙

前走評価:A

相対指数:A

デビュー距離:1600m

6番ゴールデンハインド

父:ゴールドシップ(Tサンデー系)

父母父:メジロマックイーン(欧トウルビヨン系)

母父:シャマーダル(欧ストームバード系)

祖母父:ゴーンウエスト(米ミスプロ系)

父は天皇賞春優勝馬。

母父シャマーダルは仏国ダービー馬。

母の従兄弟に米国ダ2000mG1勝ち馬。

近親に仏国の2000mG1の2着馬。

母系の構成は、持続力強化と直線スピード強化を担う配合。

体型も胴長で、距離延長は血統構成も含め大歓迎のはずです。

アイビーS(東京1800)では、前有利馬場に恵まれた
牡馬2頭と、オープンファイアみの強襲に屈して4着に敗れました。

それでも上り2位の脚を使っており、
距離短縮ローテが合わなかった事も含め、
位置取りがもう少し前であれば、着順はもっと上だったろうと
考えております。

前走で逃げた馬が馬券に絡んだ事のないオークスですが、母系から持続力の補完を受けた先行タイプは良く穴をあけるレース。

好位に控える乗り方をするようなら、面白い存在になりそう。

父距離適性:A

牝系距離適性:B

上り評価:注(ポジション次第)

レース適性:注(ポジション次第)

前走評価:B

相対指数:B

デビュー距離:1800m

7番ヒップホップソウル

父:キタツサンブラック(Tサンデー系)

父母父:サクラバクシンオー(欧プリンスリーギフト系)

母父:ファルブラヴ(欧フェアリーキング系)

祖母父:サンデーサイレンス

オークス馬ダンスパートナー、桜花賞馬ダンスインザムード、ダービー2着馬エアダブリン、菊花賞馬ダンスインザダーク
数え上げればきりが無い程の名馬を出したダンシングキイ牝系。

距離は不安どころか、むしろ伸びた方が良い牝系です。

ただ、この牝系の中で、本馬の直系となるダンスインザムードからのファミリーは、マイラー色が強く、小回りコース適性が高い一族の中では異端なファミリーでもあります。

本馬も例にもれず、中山1800m重賞(不良馬場)で2着に好走しており、新馬勝ちも中山の稍重でした。

これは、母のダンスファンタジアが、
フェアリーキング系のスプリント種牡馬
ファルブラヴの産駒である事が、
距離適性の短距離化と、非主流条件への
適応力を強化してしまったから。
ではないかと想像しています。

雨がたっぷり降るようなら怖い存在ですが、
良馬場の東京2400mと言う「王道条件」の
瞬発戦となると、好走するイメージが湧きにくいところ。

父距離適性:A
牝系距離適性:C
上り評価:C
レース適性:D
前走評価:C
相対指数:E
デビュー距離:1600m

8番レミージュ

父:キズナ(ディープ系)
父母父:米ストームキャット
母父:ゴーンウエスト(米ミスプロ系)
祖母父:ジルザル(欧ヌレイエフ系)

父はダービー馬。
牝系ファミリーの上級条件における
勝ち星最長距離は2000mで一応合格。

ですが、どちらかと言えば、ダートで出世する牝系で、
ダ1400mが本領のファミリーといったイメージです。

本馬自身、近2走の重賞では
どちらも1秒以上の大差で負けており、

ダート替わりで狙いたい「マイチェック馬」に
登録しております。

ここでは評価対象外とさせていただきます。

9番コナコースト

父:キタサンブラック(Tサンデー系)

父母父:サクラバクシンオー(欧プリンスリーギフト系)

母父:キングカメハメハ(欧キングマンボ系)

祖母父:フレンチデピュティ(米ヴァイスリージェント系)

父は天皇賞春の勝ち馬。

牝系ファミリーからは2000m重賞3着馬が出ておりますが、
この牝系出身の牝馬はマイラーになる傾向が顕著で、
距離が延びてプラスになるとは考えにくいところ。

馬柱から人気を集めそうですが、
桜花賞は持続力が有利に働く展開であった事を
考慮しますと、距離延長の瞬発戦になった場合は
ちょっと寒い気が致します。

父距離適性:A

牝系距離適性:C

上り評価:C

レース適性:D

前走評価:C

相対指数:A

デビュー距離:1800m

10番ソーダズリング

父:ハーツクライ(Tサンデー系)

父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母父:シンボリクリスエス(欧ロベルト系)

祖母父:フェアリーキング(欧ND系)

父は有馬記念の優勝馬。

母父は有馬記念を連覇。

祖母父はサドラーズウェルズの全弟。

血統の字面からは、距離適性は万全に見えます。

牝系ファミリーの上級条件、重賞における
距離実績は2000mと1600mがベストで、
2000mを超えると、非根幹距離に良績が
偏る傾向があるのは少し気になる所。

とは言え、前走のフローラSのラップパターンは
オークス過去10年の平均パターンと酷似しており、
本番の予行演習としては最適の舞台だったと申せましょう。

上りの脚もしっかりとしており、
鞍上が控える競馬を教え込んだ武豊殿に戻るのは
オークスと言うレース質を考えればプラス材料です。

父距離適性:A

牝系距離適性:B

上り評価:B

レース適性:B

前走評価:B

相対指数:D

デビュー距離:1800m

11番ミッキーゴージャス

父:ミッキーロケット(欧キングマンボ系)

父母父:ピヴォタル(欧ヌレイエフ系)

母父:ディーピンパクト

祖母父:ゴールドウェイ(欧ヌレイエフ系)

父は宝塚記念馬で2400m以上のG1では
少し足りないタイプでした。

ですが、母ミッキークイーンはオークスと
秋華賞を勝った牝馬2冠馬です。

牝系ファミリーの距離適性は、
1600mから2200mの集中しており、
特に2200mは複勝率83.3%と期待値が高く、
父も牝系も2200mが得意なら、この馬もと
2200mマイチェック馬に入れております。

とは言え、東京コースにも
水準以上の適性を見せるファミリーですので、
母がオークス馬という事も含め、一応は
押えようかと考えております。

実績面では、小回りコースにしか
使われていませんから、適性を計る事は
難しいものの、前走は瞬発戦ラップで上り最速勝ちを決めており、
母父ディーパインパクトなら、東京でやれても不思議はないかと。

父距離適性:C

牝系距離適性:B

上り評価:B

レース適性:不明

前走評価:C

相対指数:E

デビュー距離:2000m

12番ハーパー

父:ハーツクライ(Tサンデー系)

父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母父:ジャンプスタート(米APインディ系)

祖母父:カーソンシティ(米ミスプロ系)

父は有馬記念優勝馬。

母父は米国のダート1700mG1馬。

母はアルゼンチンの1600mG1馬。

全兄のダノンセレスタは、2勝クラスの2200mを勝っていますので、距離適性はあると思われませんが、上り時計の掛かる競馬でしかメンバー上位の上りを使えない「超鈍足タイプ」で、現在はジャンプ路線に転向中。

半姉ヴァレーデラルナ(父ドゥラメンテ)は、ダートの交流G1JBCレディスクラシック(1800m)の勝ち馬。

要するに、持続力・持久力を活かせる舞台で好走する非主流の牝系と考えるのが正しいかも知れません。

本馬自身、上り3Fタイム順位3位以内の経験はなく、クイーンカップ優勝も、雨馬場の持続ラップでのものでした。

果たして、世間で言われるほど「オークス向き」なのか？

拙者は、盛大に「眉に唾」しております。

父距離適性:A

牝系距離適性:C

上り評価:D

レース適性:D

前走評価:C

相対指数:B

デビュー距離:2000m

初勝利:1600m

13番ドゥーラ

父:ドウラメンテ(欧キングマンボ系)

父母父:サンデーサイレンス

母父:キングヘイロー(欧リファール系)

祖母父:ステイゴールド(Tサンデー系)

父はダービー馬。

牝系は1200mの牝系で、

この馬は突然変異と言える存在のようで、

1800m重賞を勝ち、マイル戦は忙し過ぎる印象。

体型的にも脚が長く、マイラーと言うよりは中距離タイプ。

祖母父ステイゴールドの影響があるのかも知れません。

この馬のマイル戦の中では、チューリップ賞に刮目すべきです。

オークスに非常に近いラップパターンのレースで、

中団馬群から追走出来ておりましたが、

直線の勝負所で、内外から完全に挟まれて

ブレーキをかける大きな不利があった事は

見逃してはならない重要なポイントだと思っています。

脚色よく上がって来ていた矢先の不利だけに

あれがなければ何着に来たのか？

桜花賞は流れが速すぎて、3, 4角の間あたりから

おっつけどうしの競馬となり、直線に向いた時には

既に脚が上がっている状態でしたので、

オークスの流れで楽に追走出来て、不利を受けなければ、

思わぬ末脚の破壊力を見せられる可能性がありそう。

父距離適性:A

牝系距離適性:参考外

上り評価:注

レース適性:注

前走評価:展開不向き

相対指数:D

デビュー距離:1800m

14番ペリファーニア

父:モーリス(欧ロベルト系)

父母父:カーネギー(欧サドラーズ系)

母父:ハーツクライ(Tサンデー系)

祖母父:クリス(欧エタン系/ネイティヴダンサー系)

有馬記念馬エフフォーリア(父エピファネイア)の半妹。

牝系ファミリーからは、ジャパンカップ勝ち馬のアドマイヤムーンも出ており、牝系の距離適性に不足はありません。

ただ、本馬の場合は

父がモーリス(1600~2000m)ですので

兄程の距離適性があるかどうかは微妙なところ。

また、前脚が短めの前傾姿勢で、マッチョな体つきからは2400mへの距離延長に高いハードルを感じます。

これはあくまでも血統の字面だけのデータですが、母父にTサンデー系種牡馬を持つ馬は、過去10年で10頭が出走して全滅。

昨年の2人気アートハウスも父がロベルト系で、母父がTサンデー系の配合馬でした。

父距離適性:D

牝系距離適性:A

上り評価:C

レース適性:D

前走評価:C

相対指数:A

デビュー距離:1600m

15番エミュー

父:ハービンジャー(欧ダンチヒ系)

父母父:欧ネイティヴダンサー系

母父:スペシャルウィーク(Tサンデー系)

祖母父:ゴーンウエスト(米ミスプロ系)

父は昨年の3着馬ナミュール、17年2着馬モズカッチャンの2頭を馬券圏内に送り込んだ実績のあるハービンジャー。

牝系ファミリーから上級条件の1800m以上で馬券に絡んだ馬は出ておらず、短距離牝系の出身馬です。

高速上りのレースには対応出来ておらず、上り時計の掛かる「小回りコース」に向く印象。

父距離適性:A

牝系距離適性:D

上り評価:C

レース適性:D

前走評価:直線不利

相対指数:D

デビュー距離:1600m

16番ドウアイズ

父:ルーラーシップ(欧キングマンボ系)

父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母父:ディーピンパクト

祖母父:欧ダンチヒ系

父ルーラーシップのG1優勝実績は香港2000m。

瞬発力に欠けるタイプでしたので、
国内のG1では銅メダリストに甘んじておりました。

英国のオークス3着馬サミットヴィル牝系の出身で、
ファミリーの上級条件、重賞における距離適性は
延びるほど安定感が増す一方で、やはり勝ち切れない
一族であります。

父と母父が同じ組み合わせのキセキも
勝ち味に遅く、持続力が生きるコースや展開・馬場で
活躍しておりました。

本馬も前目のポジションから、持久力が生きる展開になれば
上位争いに加わって来そうですが、瞬発戦ではどこまでやれるか？

父距離適性:C

牝系距離適性:B

上り評価:D

レース適性:C

前走評価:直線不利大

相対指数:C

デビュー距離:1800m

17番シンリョクカ

父:サトノダイヤモンド(ディープ系)

父母父:欧ダンチヒ系

母父:キングカメハメハ(欧キングマンボ系)

祖母父:カーリアン(欧ニジンスキー系)

父は菊花賞と有馬記念の優勝馬。

母の半兄ダノンシャーク(ディープ系種牡馬)は
マイルチャンピオンSの優勝馬で、牝系ファミリー全体としても
それに準ずる距離適性を見せております。

それでも、1800mの上級条件勝ち馬と、
重賞好走馬が出ておりますので、牝系の距離適性としては
かろうじて及第点と言ったところ。

ただ、英国牝系に連なりますので、
上り時計を要する展開や馬場に利がありそうで、
本馬自身も消耗戦ラップの阪神JFで12人気2着に
激走しております。

父距離適性:A

牝系距離適性:C

上り評価:C

レース適性:D

前走評価:C

相対指数:C

デビュー距離:1600m

18番イングランドアイズ

父:キングマン(欧ダンチヒ系)

父母父:ザミンダール(欧ミスプロ系)

母父:ハーツクライ(Tサンデー系)

祖母父:スピニングワールド(欧ヌレイエフ系)

※母はオークス馬ヌーヴォレコルト

父キングマンは欧州のマイルG1を4勝したマイルのスペシャリスト。
マイルを超える距離には出走経験が無いので、この実績が
そのまま距離適性とは言いきれませんが、ザミンダールが
短距離馬でしたので、基本的にはマイラー種牡馬という認識で
よいと思っております。

ただ、母がオークス馬なので、距離をこなせる下地は否定できません。

また、近2走はいずれも展開が不向きで、
特に前走のフローラSは「内・前超有利」馬場でもあり、

ゲートが改善出来て、もう少しポジションを取れば、
能力は評価できるので3着紛れ込みがあるかも知れません。

父距離適性:D

牝系距離適性:A

上り評価:A

レース適性:注

前走評価:馬場・展開不利大

相対指数:D

デビュー距離:2000m